# PosiTector® 6000

## *Coating Thickness Gage*

### On-Gage Help Reference

計器上ヘルプのリファレンス

DeFelsko®

The Measure of Quality

# 情報

このリファレンスは、PosiTector で利用可能な計器上のヘルプをまとめたものです。計器上でこれらのヘルプ項目を表示するには、計器のメニューに入り、アイコンをタッチ ⓘ するか、希望するメニュー項目が選択されたボタンを押 ⊕ 下します。

計器の使用と操作の概要については、付属の取扱説明書を参照するか、
www.defelsko.com/manuals で PDF をダウンロードしてください。

PosiTectorがこれらの最新のヘルプリファレンスを含むように、計器を更新してください。取扱説明書は、www.defelsko.com/updates で入手できます。

# Contents


メモリ ..... 4
開く ..... 4
閲覧 ..... 4
ディスプレイ ..... 4
プロンプトバッチ ..... 4
新90/10  ..... 5
注釈 ..... 5
印刷 ..... 5
新規サブバッチ  ..... 6
テンプレートの削除  ..... 6
注釈の読取 ..... 6
新PA2  ..... 6
新規バッチ ..... 7
閉じる ..... 7
削除 ..... 7
新ISO 19840  ..... 7
バッチ要約  ..... 8
統計 ..... 9
統計 ..... 9
クリア ..... 9
上下限 ..... 9
校正設定  ..... 10
一点調整  ..... 10
零点調整  ..... 11
校正メモリ ..... 11
校正名の編集 ..... 11
N 一点調整 ..... 11
零点オフセット ..... 12
F零点化 ..... 12
二点調整 ..... 12
校正ロック ..... 13
Zn零点化 ..... 13
N ロック（非鉄専用） ..... 13
条件設定  ..... 15
時計設定  ..... 15
高速測定 ..... 15
初期化 ..... 16
単位 ..... 17
バッテリ種別  ..... 17
音量 ..... 17
タッチスクリーン  ..... 17
スキャン ..... 17

バックライト  ..... 18
反転ロック  ..... 18
言語 ..... 18
機器情報  ..... 18
高分解能  ..... 18
二重モード ..... 19
接続 ..... 20
Bluetooth ..... 20
有効化 ..... 20
Bluetooth 設定 ..... 20
入力デバイス ..... 20
キーボード ..... 20
電源断時間 ..... 20
バッチ転送  ..... 21
バッチ同期 ..... 21
Bluetooth クラシック ..... 21
ペアリング ..... 22
有効化 ..... 22
ストリーム ..... 22
情報 ..... 22
スマートプローブ  ..... 22
USB ..... 22
同期 ..... 22
USB ドライブ  ..... 23
JSON ファイル  ..... 23
HTML レポート  ..... 23
ストリーム ..... 24
自動同期 ..... 24
USB キーボード  ..... 24
注釈ストリーム ..... 24
キーボードのフォーマット ..... 25
WiFi ..... 25
条件設定オプション  ..... 25
AP チャネル  ..... 25
計器名  ..... 26
サーバ有効化  ..... 26
IP 設定  ..... 26
AP パスフレーズ  ..... 26
WiFi 初期化  ..... 26
WiFi ストリーム ..... 26
自動同期 ..... 27
アクセスポイント  ..... 27
有効化 ..... 27
ネットワーク ..... 27
WiFi 情報  ..... 28

同期 ..... 28
更新 ..... 28
ヘルプ ..... 29
電源切断 ..... 30

# メモリ

ポジテクタ6000高機能型は、測定値の記録用に内部メモリを有しています。
画面上で、保存測定値を点検したり、PC、タブレット、スマートホンからアクセスすることができます。測定値には、日付及び時刻が貼付されています。1,000バッチ、250,000件までの読取値を格納できます。

計器に測定値を格納すると、メモリアイコンが表示され、基本統計量が表示されます。

## 注記:
(-)を押下することにより、最終読取値を削除します。

# 開く
作成済のバッチあるいはサブバッチ選択し、該当バッチを開き、
バッチをアクティブにします。測定値がある場合、画面上の統計量は、
即時に計算された値が反映されます。バッチと結びついた校正設定値（例えば、Cal1）も開かれます。

# 閲覧
上下ボタンを使用して、現在、開かれているバッチの情報、
統計の要約及び読取値の一覧をスクロールします。終了するには中央のナビゲーションボタンを押下して下さい。

# ディスプレイ
測定時、画面上部の表示オプションを選択して下さい。

## ショートカット:
上(Up)ボタンを押下して、表示オプションをスクロールして下さい。

## 注記:
表示オプションは、現在、バッチが開かれている場合のみ、表示されます。

# プロンプトバッチ
PosiSoft Desktopにおいて、各測定データの画面に表示するテキスト及びイメージデータの定義を前もって作成し、
次にポジテクタ6000にダウンロードします。
繰り返しの作業や指定の測定箇所が要求される時に、一貫した測定パターンを確保するのに便利です
。異なった作業用に複数のテンプレートを作成及び保存をしておいてください。

全取扱説明については、PosiSoft Desktop のヘルプを参照。

## 注記:

ポジテクタからテンプレートを削除しても、PosiSoft Desktopからは、
削除されません。

# 新90/10

ポジテクタ6000　ＰＳＰＣ　90/10モードは、
IMO規定に基づく成功/失敗(pass/fail)を決定するプロセスを規定します。
海事の適用のために開発されたけれども、このモードは、的確な表面乾燥膜厚にするための統計手法を求めている工業界で使用することができます。

## 90/10ルール

全ての膜厚測定の90%はNDFT(nominal dry film thickness)より大きいか、
あるいは等しいことが要求されます。残りの10%のいずれもが、
0.9×NDFTを下回ってはならない。

## 90/10ルール設定

(-) と (+)ボタンを使用して、目標のNDFTを入力します。
320ミクロン(12.6mils)の値が通常、使用されます。新規（NEW）を選択して、
了承します。

詳細の取扱は、www.defelsko.com/9010を参照。

# 注釈

なじんだQWERTY キーボードを使用して、バッチ名を作成し、
計器に注釈を入力します。

タッチスクリーンあるいはナビゲーションボタンのいずれかを使用すると注釈を入力することができます。

注釈は、PosiSoft.net 及び PosiTector App と同期をとることができます。PosiSoft USB ドライブのレポートにも、注釈は含まれています。

# 印刷

統計量の要約及び個々の測定値をオプションのBluetooth
ワイヤレスプリンタに送信します。

プリンタの電源オン及び計器とのペヤリングを確認して下さい。次に印刷を選択します。印刷をキャンセルするには、(-) と (+)ボタンを同時に押下保持します。

ペヤリングの詳細は、www.defelsko.com/bluetooth 参照。

# 新規サブバッチ

現在開いてバッチ内に新規にサブバッチを作成します。サブバッチは、
統計量が積算されるよう、関連したバッチをグループ化します。例えば、
メインのバッチ(B1)は、サブバッチの統計量を含んでいます(即ち、B1s1及びB1s2)。

ショートカット： サブバッチが開かれている時、(+)キーを押下することにより、
新しいサブバッチが作成されます。

## 注記:

バッチが開かれている時のみ、新しいサブバッチが表示されます。

# テンプレートの削除

ポジテクタ本体からプロンプトされたバッチのテンプレートを削除します。

## 注記:

ポジテクタからのテンプレートを削除しても、PosiSoft
Desktopソフトウェアからは削除されません。

# 注釈の読取

なじんだQWERTY
キーボードあるいはBlutoothキーボード/バーコードスキャナを使用して、
バッチ名を作成し、計器に注釈を入力します。

タッチスクリーンあるいはナビゲーションボタンのいずれかを使用すると注釈を入力することができます。

注釈は、PosiSoft.net 及び PosiTector App と同期をとることができます。PosiSoft USB ドライブのレポートにも、注釈は含まれています。

# 新PA2

SSPC PA2モードは、大きな面積上の膜厚が、
指定された最小/最大値に適合しているかを決定するのに役立ちます。

## PA2 設定

必要時、PA2パラメータを調整します。

パラメータを調整するために、上下ボタンを使用して、
該当パラメータをハイライトします。次に(-) と (+)ボタンを使用して、
パラメータを調整します。

詳細の取り扱いは、www.defelsko.com/PA2 参照。

# 新規バッチ

開いているバッチを閉じ、次に利用可能な番号で新しいバッチを作成します。例えば、B1 及び B3だけが存在すると、B2 が作成され、現在のバッチとなります。
各測定値が表示され、この新しいバッチに格納されます。

画面上の統計量は、即座にこの測定値で更新されます。新しいバッチには、
作成時の日付及び時刻が貼付されています。

ショートカット: バッチが開かれている際、(+)を押下すると、
新しいバッチを作成します。

## 注記:

(-)ボタンを押下することにより、現在開かれているバッチから、
最後の読取値を削除します。

# 閉じる

記録を停止し、現在のバッチを閉じ、ディスプレイからバッチ情報を消去します。

# 削除

メモリからバッチあるいはサブバッチを削除します。バッチ名が削除され、
全ての測定値が消去されます。サブバッチは個々に削除することができます。
全ての関連サブバッチを消去するには、上位のバッチを消去するだけです。

# 新ISO 19840

粗い面上の膜厚測定に対して、ISO 19840合否基準に適合しているかを判断す
るのに役立ちます。

## ISO 19840 設定

必要時、ISO 19840パラメータを調整してください。

パラメータを調整するために、上下ボタンを使用して、
該当パラメータをハイライトします。次に(-) と (+)ボタンを使用して、
パラメータを調整します。

詳細の取り扱いは、www.defelsko.com/19840 参照。

# バッチ要約

バッチ名、プローブ種別、各バッチの読取数の要約を表示します。

# 統計
統計量の構成及び上下限モードのメニューオプションです。

# 統計
統計モードは、測定中における平均、標準偏差、
最大/最小厚及び読取数を連続に表示/更新します。

選択時、統計アイコン及び統計の要約が画面上に表示されます。

(-)ボタンを押下すると、最終読取値を無視します。(+)ボタンを押下すると、
統計量をクリアします。

# クリア
全ての統計量及び上下限表示がクリアされます。

# 上下限
測定値が指定した制限値を超えた場合、視覚的及び音響的に警告することができます。

上下限が選択されている時、現在の下限の設定値（Lo）が表示されます。(-) あるいは
(+)ボタンを使用して調整します。もう一つの方法として、
要求値に近い膜厚を測定し、(-) あるいは (+)ボタンで調整します。次に（Next）
を選択し、この値を決定します。現在の上限設定値(Hi)が表示されます。
上記方法にて、上限値(Hi)を調整します。

各測定を設定した上下限値と比較します。測定結果が制限値内であれば、
計器はビープ音を鳴動します。読取値が下限値より下であれば、単一の低音を鳴動し、
上限値を超えている場合、高音を鳴動します。(+)ボタンを押下すると、
上下限の読取値をクリアします。

統計アイコンが画面上に表示されます。

# 校正設定

## 校正、検証、調整

ポジテクタ6000は、金属上の膜厚を非破壊式に測定します。３つのステップにより、
最良の精度を確保します。

1. 校正：通常、製造元で実施されます。
全てのプローブに校正証明書が添付されています。

2. 精度の検証：通常、添付のプラスチック片などの既知の厚さ標準、
あるいはオプションの膜厚標準を使用して、ユーザにより実施されます。

3. 調整 – 調整あるいは校正調整は、
特殊な面あるいは測定範囲の特殊な部分の影響を改善するために既知の厚み合うよう、
厚みを調整する行為です。１点あるいは２点校正調整が可能です。

プローブは、工場校正が実施されており、
測定がなされるごとに自動でセルフチェックを実行します。多くの測定において、
初期化（リセット）後、さらなる調整は必要ありません。単に、
塗装のない面で零点をチェックし、測定します。しかしながら、サンプルの形状、
組成及び表面の粗いような素地の変動に影響される場合があります。
そのような理由で、校正調整がなされます。
校正調整が計器に対して実施された場合、工場校正シンボルが消えます。

校正調整方法が規定されていない場合、最初に、
零点調整あるいは１点調整を実行してください。
添付のプラスチック片での測定が不正確な値を示す場合、
２点調整を実行してください。初期化（リセット）
及び新しい校正設定を作成あるいはCal 1に対してなされた調整を削除す
ることによって、工場設定に戻すことが可能です。工場設定が使用中の場合、
工場校正シンボルが画面上部に表示されます。

FN計器の場合、校正調整が、Ｆあるいは Ｎモードに対して、個別に実行され、共に、
特別なCalに保存されます。

# 一点調整

粗い面上での膜厚測定時、
零点調整よりもプラスチック片などの既知の膜厚に計器を調整することが望ましい。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、
3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、
平均化数を増加することが望ましい。

繰り返し、既知の厚さを測定します。測定面にプローブを正しく置けるよう、計器は、測定間において、2秒待ちます。最終の測定の後、全ての測定の平均を示す読取値を計算し、表示します。予想読取値が得られない（許容範囲外）場合、プローブを測定面から揚げて、予想測定値に(-) あるいは (+)ボタンにて調整します。次に中央のボタンを押下します。

# 零点調整

零点調整は、未塗装で測定して、零点がプローブの許容範囲内にない場合、実施されます。

平滑な面で測定した場合、読取数（X＝1）で充分である。
粗い面あるいは湾曲した面で測定した場合、推奨される方法は、未塗装の面で数回、測定し、結果を平均化することです。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、平均化数を増加することが望ましい。

未塗装の部材で、繰り返し、測定して下さい。測定面にプローブを正しく置けるよう、計器は、プローブを測定面に置いた後、測定開始を２秒待ちます。測定後、計器は、読み取られた全ての零点を平均化した値を示すために零点の平均計算を実行します。

# 校正メモリ

別の測定前に、特殊な校正調整を保存しておくことは、しばしば便利です。特殊な場合の部材測定に戻る際、該当の校正調整に戻ることができます。

画面の上部右端に、現在の校正設定（例えば、Cal3）が表示されます。特殊な部材の測定に戻る際、保存した校正設定を選択することができます。Cal 1は調整することができますが､削除することはできません｡初期化(リセット)後､工場校正設定をアクティブにします｡読取値を含むバッチが開かれている場合､新しい校正設定を作成することはできません｡

# 校正名の編集

QWERTYキーボードを使用して､校正メモリ名(Cal Memory name)作成します。校正メモリ調整が複数保存している時、役立ちます。

# N 一点調整

(PosiTector 6000 FNDS のみ)
粗い亜鉛面（即ち、亜鉛溶射）に対して、既知の厚さに計器を調整することが望ましい場合があります。例えば、零点調整よりも、亜鉛上にプラスチック片を置くなど。
　金属メッキ上の塗装膜の測定を確実なものにします。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、
3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、
平均化数を増加することが望ましい。

繰り返し、未塗装の亜鉛メッキ上で、厚さ既知のリファレンスを測定します。
測定面にプローブを正しく置けるよう、計器は、プローブを測定面に置いた後、
測定開始を２秒待ちます。最終測定後、全ての測定の平均を示す読取値を計算し、
表示します。予想読取値が得られない（許容範囲外）場合、
プローブを測定面から揚げて、予想測定値に(-) あるいは (+)ボタンにて調整します。
次に中央のボタンを押下します。

注記:
厚さ既知のサンプルは、予想塗膜厚と類似している方が良い。

# 零点オフセット

零点オフセット調整は、代表的な未塗装を利用することなく、
粗い面あるいはブラストされた面上の膜厚を測定する際、便利です。
プレ定義された零点オフセットは、ISO 19840に従って、
ブラストプロファイル高さにより選択することができます。

細かい　10μm(0.40mils)
中間　　25μm(1.00mils)
粗い　　40μm(1.55mils)
カスタム　(-) あるいは (+)ボタンにて調整

各読取値から零点オフセットを差し引く。

# F零点化

(PosiTector 6000 FNDS のみ)
未塗装の鋼鉄素地を測定する（可能な場合）。
数回のF読取値が零点の許容範囲内でない場合、F零点調整を実施してください。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、
3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、
平均化数を増加することが望ましい。

繰り返し、未塗装の鋼鉄部材で測定します。測定面にプローブを正しく置けるよう、
計器は、プローブを測定面に置いた後、測定開始を２秒待ちます。最終測定後、
全てのF零点化(F Zero)測定の平均を示す零点を計算します。

# 二点調整

測定範囲内あるいは定義された範囲内でのより良好な精度が得られます。
非常に特異な素地材料、形状あるいは条件に対して、推奨されている方法です。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、
3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、
平均化数を増加することが望ましい。

繰り返し、既知の厚さを測定します。測定面にプローブを正しく置けるよう、計器は、
測定間において、2秒待ちます。最終の測定の後、工場校正の設定を使用して、
全ての測定の平均を示す読取値を計算し、表示します。

プローブを測定面から揚げて、最初の厚さリファレンスの既知の厚さに(-) あるいは
(+)ボタンにて調整します。次に中央のボタンを押下して確定します

２番目の厚さリファレンスに対して、上記の手順を繰り返してください。

# 校正ロック

有効の時（デフォルト）、校正ロックアイコンが表示されます。
不注意による調整を回避できます。

# Zn零点化

(PosiTector 6000 FNDS のみ)
未塗装の亜鉛素地を測定する（可能な場合）。
数回のN読取値が零点の許容範囲内でない場合、Zn零点調整(Zn
Zero)を実施してください。

(+)ボタンを押下して、平均化に使用される読取数を選択して下さい。通常、
3から10が選択されます。測定値のばらつきが大きければ大きいほど、
平均化数を増加することが望ましい。

繰り返し、未塗装の亜鉛メッキ部材で測定します。
測定面にプローブを正しく置けるよう、計器は、プローブを測定面に置いた後、
測定開始を２秒待ちます。

最終測定後、全てのZnF零点(Zn Zero)測定の平均を示す零点を計算します。

# N ロック（非鉄専用）

(FN プローブのみ)通常は、非鉄上で測定するとき、非鉄専用（N Lock）
を選択してください。非鉄専用（N Lock）アイコンが表示され、
プローブは測定時間を短縮し、電池寿命を延長するために渦電流原理のみを使用します
。

非鉄専用(N Lock)は、
メッキされた鋼鉄上の塗膜厚あるいは部分的に磁気のある素地を測定する際、有益です
。

メッキされた鋼鉄：プローブは、通常、
鋼鉄上の塗膜及びメッキ部分のトータルを磁気原理を使用して測定します。
非鉄専用(N Lock)モードでは、
計器は非鉄にメッキされた部分上の塗膜厚のみを測定します。

部分的に磁気を帯びた素地：即ち、
ニッケルメッキした真鍮に金を塗布してクリアコートしたもの: 非鉄専用(N Lock)モードでは、計器は素地内の磁気を無視し、塗膜厚を正確に測定するために渦電流方式を使用します。

警告:
非鉄専用(N Lock)モードで、鋼鉄(ferrous)上の非導電性被膜を測定する時、
読取値を得ることはできますが、この方法は推奨されません。

# 条件設定
計器の構成オプションを設定します。

# 時計設定
全ての測定値には、メモリの格納時に日付及び時刻（２４時間フォーマット）
が貼付されます。それゆえ、
このメニューオプションを使用して現在の日付及び時刻を維持することは重要です。
上下ボタンを使用して、スクロールし、(-) 及び (+) で値を調整します。
計器の日付及び時刻を計器情報及びメインメニューの上部で閲覧することができます。

## NTP
NTP (Network Time Protocol)を使用して、
WiFi上のリモートサーバとの自動時刻同期を有効にします。

NTP サーバアドレス及びTZ（タイムゾーン）詳細を入力します。ポジテクタは、
POSIX フォーマット使用して､タイムゾーンを設定を使用します。

USA における東部標準の入力は、次のとおり。

EST5EDT4,M3.2.0,M11.1.0

左から右へ。：

- EST5 はタイムゾーン名及びUTCからのオフセット です。

- EDT4 はサマータイムゾーン名及びUTCからのオフセットです。

- M3.2.0 はEDTの始まりで、Mは日付が‘Month.Week.Day’
フォーマットに従うことを示す。 3.2.0 は、３番目の月、２番目の週、
最初の曜日（日曜日）を表す。

- M11.1.0 はEDTの終わりを示し、Mは日付が‘Month.Week.Day’
フォーマットに従うことを示す。11.1.0 1は､11番目の月、1番目の週、
最初の曜日（日曜日）を表す。

詳細なNTP 規定は、 www.defelsko.com/NTP参照のこと

# 高速測定
測定速度を増加させます。素早い検査あるいは、
プローブの位置決めが重要でない厚膜の大きな面積での測定を求められる時に便利です
。プローブの素早い上げ、下げが必要です。精度を減少させる場合があります。

注記:
FNプローブにおいて、Nモードは、高速測定（Fast）モード中、無効となります。

# 初期化

工場設定に戻り、計器を既知の状態に戻ります。詳細は次のとおりです。

全てのバッチ、保存データセット、バッチ名、スクリーンキャプチャは消去されます。

校正調整及び校正メモリ(Cal Memory)は消去され、工場設定に復帰します。
工場設定アイコンが画面上に表示されます。

メニューの設定は、次のとおりに戻ります。

メモリ = 切（OFF）
高解像度=切（OFF）
統計モード=切（OFF）
上下限モード=切（OFF）
スキャンモード=切（OFF）
自動減光(Auto Dim )=入（ON）
校正ロック(Cal Lock) = 入（ON）
Bluetooth 及びストリーム =切（OFF）
BLE キーボード =　切（OFF）
WiFi 及び アクセスポイント =切（OFF）
USBキーボード及びストリーム=　切（OFF）
ディスプレイ = なし(None )
非鉄専用(N Lock) = 切（OFF）

電源を切って､ハードリセットを実行します｡電源切った後､数秒待って、
初期化シンボルが表示されるまで、中央のナビゲーションボタン及び(+)
ボタンを同時に押し続けると、ハードリセットが実行されます。この操作により、
工場出荷状態に戻ります。メニューの初期化に加えて、下記の項目が復帰します。

Bluetooth ペアリング情報がクリアされ、メニュー設定は、次の状態に戻ります。

単位 = ミクロン
タッチスクリーン =入（ON）
反転ロック =切（OFF）
自動同期(Auto Sync.net) =入（ON）
高速モード（Fast） =切（OFF）
音量 = 中位
言語 = 英語
バックライト = 標準
バッテリ種別 = アルカリ電池
Bluetooth スマート =切（OFF）

USB ドライブ =入（ON）

## 注記:

初期化の間、金属から計器を離しておいてください。日付、
時刻及びWiFiは初期化によって影響されません。

# 単位

インチ系からメートル系及びその逆の単位切り替えを行います。
メモリに保存された測定結果は変換できません。単位を切り替えるとメモリモード、
上下限を終了し、現在のバッチを閉じます。

# バッテリ種別

アルカリ電池、リチウム電池あるいはNIMH電池（充電式電池）の中から、
使用している電池を選択します。バッテリ状態のインジケータは、
選択された電池に基づいて計算されます。
計器に使用されている電池が誤っていても損傷は受けません。

# 音量

内蔵のスピーカの音量を調整します（切、低音量、中音量、高音量）。

# タッチスクリーン

タッチスクリーン機能を無効にすることができます。全ての計器機能も、
ナビゲーションボタンで制御可能です。

# スキャン

デフォルトでは、ポジテクタ6000は約１件/秒で測定します。
スキャンモードにおいて、プローブを引き揚げることなく、
複数の測定を素早く（３件/秒）実施することができます。

次の３つのスキャンモードから選んでください。

通常(Normal)- 測定面上にプローブを置いて、連続測定します。

統計(Statistics)- 測定面上にプローブを置いて、リアルタイムに統計量を表示します。
平均、最大値、最小値、標準偏差が表示されます。

Limited #Avg. – 指定した件数に到達するまで、測定を継続し、
スキャンの平均を表示します。

メモリがオンの時、スキャン測定データは記録されます。統計モード及びLimited #Avg.において、スキャンモード統計及び/または平均のみ保存されます。

個々の読取値は保存されません。スキャンの実行は、
プローブの寿命を低下させるので、平滑な面のみで、実施することが推奨されています。

詳細は、以下のURL 参照。
http://www.defelsko.com/scan

# バックライト
ディスプレイの明るさ（日中、通常、夜間）を選択します。
自動減光が有効（デフォルトは有効）の場合、バッテリ消耗を防ぐために、一定時間、何の操作も行われない後、若干、減光します。下ボタンを押下すると、
ディスプレイを明るくします。

# 反転ロック
現在の方向にディスプレイをロックすることにより、自動反転を無効にします。

# 言語
選択された言語で、ディスプレイ表示及び印刷される文字を変換します。

# 機器情報
計器のモデル番号、本体のシリアル番号、プローブ種別及びプローブシリアル番号、PosiSoft.net の登録キー、読取値保存用の残メモリ容量、日付、
時刻及びソフトウェアパッケージを表示することができます。

セキリティ目的のため、PosiSoft.net に計器を追加するには、登録キーが必要です。

# 高分解能
次のように、計器の分解能を増加させます。

| 範囲 | 分解能範囲 |
|---|---|
| 0.00-99.00 mils | 0.01 mil |
| 100.0-999.9 mils | 0.1 mil |
| 0.0-999.9 um | 0.1 um |
| 1000 um以上 | 1.0 um |

## 注記:
精度には影響しません。

# 二重モード

(PosiTector 6000 FNDS プローブのみ)

二重コーティングシステムは二つの腐食保護の組み合わせを利用します。通常、亜鉛メッキ鋼板上の塗装あるいは粉体塗装です（溶融亜鉛メッキ、電気亜鉛メッキ又は亜鉛溶射）です。腐食保護の結果は、各々、別々に用いられるより、優れています。

二重モードにおいて、計器は、磁気式(Ferrous)及び渦電流（nonferrous）原理の両方を同時に使用して個々の塗膜及び亜鉛層の厚さを計算、表示します。磁気原理は、鋼鉄素地上塗膜/亜鉛の厚みを測定するのに使用されます。渦電流原理は、非鉄の亜鉛膜上の塗膜厚を測定するために使用されます。亜鉛厚は、塗膜/亜鉛の測定結果から塗膜厚を差し引くことにより、計算されます。

有効（デフォルト）にすると、計器は２つの測定結果を表示します。無効とするためには、条件設定メニュー内の二重(Duplex)のチェックを外します。もう一つの方法は、メモリを切にした時、上ボタンを押下して、DuplexのOn/Offを切り替えてください。

無効にした時、鉄（ferrous）/非鉄（nonferrous）の両用計器（ポジテクタ6000FNSと同じ）としての動作をします。鋼鉄上の非磁性膜厚及び非鉄素地上の非導電性膜厚を測定するのに便利です。

さらなる詳細は、http://www.defelsko.com/duplex　を参照。

# 接続
計器に対する通信及び接続オプションを構成します。

# Bluetooth
Bluetooth 通信及び計器の接続オプションを構成します。

# 有効化
有効とした時、自動ペアリングBluetoothスマート(BLE)ワイヤレス技術を用いて、
PosiTector Appが動作するPCあるいはスマートデバイスとの通信が可能となります。

# Bluetooth 設定
Bluetooth 入力/出力通信モードのオプション設定

# 入力デバイス
現在、
ペアリングされているBluetoothキーボードあるいはバーコードスキャナを表示します
。読取値及びバッチの注釈を入力するには、
外付けのBluetoothキーボードあるいはバーコードスキャナを使用してください。

新しいデバイスを追加するには、
キーボードあるいはバーコードスキャナをペアリングモードとし、次を押下します。
表示されているリストから入力デバイスを選択します。接続されると、計器は、
メインの測定画面に戻ります。接続が成功した旨を示す
Bluetooth入力(キーボード)アイコンが表示されます。

# キーボード
BLE キーボードモードは、キーボードのキーストロークをエミューレートす
ることにより、PCとワイヤレスに通信します。このモードで接続されている時、
ポジテクタ高機能型は、簡単なBLEキーボードとして認識されます。
各読取値が取り込まれます（改行付）。この方法により、特別なソフトウェア、
ドライバあるいは複雑な設定なしで、取り込まれた読取値の取得が簡単にできます。

BLE キーボードモードの詳細情報については、
URL：www.defelsko.com/connect　を参照して下さい。

# 電源断時間
デフォルトで、計器は5分間何も操作されない後、ポジテクタ高機能型は、
電源オフします。測定時の接続を維持するために、
Bluetoothスマート経由で接続されている時、この電源断間隔は、調整す
ることができます。電源断間隔は、最大60分まで、5分増分にて選択可能です。(-)

及び (+)ボタンを使用して、間隔を調整し、次に了承を押下してください。

# バッチ転送

PosiTector App へ選択されたバッチを転送します。バッチ転送は、
デバイス切り替える時、便利です。
スマートデバイスと既に同期されている読取値及びバッチのみが、
自動的に同期されます。

PosiTector App が動作しているスマートデバイスに計器が接続されている際、
バッチ転送オプションが表示されます。

# バッチ同期

PosiTector Appと同期す
るバッチを選択してください。バッチの同期はバッチありの計器を新しいデバイスに接続す
る際に便利です。Bluetooth
スマートが有効の間に作成されたバッチのみが自動的に選択されます。

次の読取値が同期されているバッチに取り込まれた時、あるいは、
バッチの同期オプションが、選択されたバッチ一覧の末尾で選択されたされた時、
選択されたバッチが同期されます。

## 注記:

Bluetooth スマートが無効に設定されている場合、
バッチ同期メニューで選択されているバッチからのデータは、PosiTector App
との通信が再確立されるまで、キューに保持されています。

# Bluetooth クラシック

Bluetooth ワイヤレス技術を使用してPC、
オプションのプリンタあるいは互換性のあるデバイスに読取値を送ることができます。
ペアリングが必要です。

www.defelsko.com/bluetooth 参照。

## 注記:

Bluetooth ワイヤレス技術を使用してPC、
オプションのプリンタあるいは互換性のあるデバイスに読取値を送ることができます。
ペアリングが必要です。

# ペアリング
読取値は送信する前に、計器及び受信デバイスをペアリングする必要があります。

ペアリングについては、www.defelsko.com/bluetooth　参照。

# 有効化
Bluetooth ワイヤレス技術を使用してPC、
オプションのプリンタあるいは互換性のあるデバイスに読取値を送ることができます。
ペアリングが必要です。

# ストリーム
シリアルプロトコルでUSB接続のPCに個々の読取値を送信します
。シリアル互換のSPCデータ収集ソフトウェアの使用に便利です。

www.defelsko.com/update 参照。

# 情報
現在、ペアリングしているデバイス及びMACアドレスなどのBluetooth
接続についての情報を表示します。

# スマートプローブ
利用可能なポジテクタDPM-L及びCMM-ISスマートプローブを表示します。
表示されるにはスマートプローブの電源をオンする必要があります。

## ショートカット:
計器のメインメニューにスマートプローブメニューオプションに追加するには、
ショートカットボックスにチェックを入れて下さい。

# USB
添付のUSBケーブルを使用して、計器をPC/Macに接続します。
汎用のウェブブラウザ/ファイルエクスプローラあるいはPosiSoft Desktop
を使用して読取値及びグラフを閲覧及び印刷を実行します。

## 注記:
添付のUSBケーブルを接続すると、USBケーブルから電源が供給されます。
バッテリが使用されず、本体は、自動的に切れません。

# 同期

同期が選択されていると、PosiSoft.net (PosiSoft Desktop
が動作しているPCへのUSB接続が必要)と格納されている測定データを即座に同期します
。

もう一つの方法として、USB接続メニュー内から自動同期(Auto Sync.net )を選択し、
自動的にPCと同期を取ります。接続中にメモリ追加された測定データは、
USBケーブルが外され、再接続された時、もしくは同期(Sync.net Now)を選択すると、
同期されます。

注記:
PosiSoft.net と測定データと同期をとるには、PosiSoft DesktopのUSB接続が必要です。

# USB ドライブ

USBドライブが有効の時、ポジテクタは、
USBフラッシュドライブ及びデジタルカメラと同じように保存データを読み出す
簡単なインターフェースのUSB大容量デバイスとして認識されます。USBドライブは、
保存されたデータをPosiSoft Desktop に取り込むのに必要です
。添付のUSBケーブルを使用してPCに接続すると、
PosiTectorと呼ばれる仮想ドライブを操作することにより、
どのPCからでもメモリ内測定データを閲覧することができます。

注記:
添付のUSBケーブルを接続すると、USBケーブルから電源が供給されます。
バッテリが使用されず、本体は、自動的に切れません。

# JSON ファイル

有効設定(デフォルト)の場合、PosiSoft USBドライブ内で、
JSONファイルが利用できます
。データベース及びカスタムソフトウェアへのファイル解析が可能となります。

注記:
オプションを無効にすることにより、USBに最初、接続された時、PCがPosiTector
を認識する時間を減少させることができます。

# HTML レポート

有効(デフォルト)設定の場合、HTML
フォーマットのレポートをルートディレクトリ内のindex.htmlあるいは
START_HERE.htmlを選択することにより、閲覧できます。オプションで、
各バッチフォルダ内のテキストファイル(.txt)へのアクセスが可能です。
保存測定データ及びグラフを汎用ウェブブラウザあるいはファイルエクスプローラを

使用して閲覧あるいはコピーできます
。

注記:
オプションを無効にすることにより、USBに最初、接続された時、PCがPosiTector
を認識する時間を減少させることができます。

# ストリーム
シリアルプロトコルでUSB接続のPCに個々の読取値を送信します
。シリアル互換のSPCデータ収集ソフトウェアの使用に便利です。

USBキーボード及びストリーミングの情報は、URL:www.defelsko.com/usb/stream
参照。

# 自動同期
有効の場合、PosiSoft Desktop が動作しているPCに接続した時に、
測定値は自動的にPosiSoft.net と同期します。接続中にメモリ追加された測定データは、
USBケーブルが外され、再接続された時、もしくは同期(Sync.net
Now)が選択された時に同期されます。

注記:
PosiSoft.net と測定データと同期をとるには、PosiSoft DesktopのUSB接続が必要です。

# USB キーボード
USB キーボードモードは、PCと接続時、高機能型本体を、
USBキーボードのエミュレートを可能にします。

USBキーボードモードは、キーボードのキーストロークをエミュレートす
ることにより、PCと通信します。このモードでの接続時、
ポジテクタ高機能型本体を簡単なUSBキーボードとして認識します。
各読取値を取り込み、復帰改行（enter）します。この方法により、
特別なソフトウェア、ドライバあるいは複雑なセットアップすることなく、
読取値を取り込めます。

USB キーボードモードのさらなる情報は、URL: www.defelsko.com/connect
を参照してください。

# 注釈ストリーム
注釈ストリームは、部材数あるいはジョブIDなどのテキストを入力を可能にします。
各測定に挿入されます。

有効の場合、注釈ストリームフィールドがメイン測定画面に表示されます。
フィールドにタッチし、画面上のキーボード（タッチスクリーンが有効の場合）
を使用してテキストを入力します。

注記:
注釈ストリームは、ストリームが有効且つメモリ、統計及び上下限がオフの場合、
利用できます。

# キーボードのフォーマット
デフォルトで、キーボードモードにおいて測定値が転送される際、
復帰改行（エンター）によって、進められる。キーボードフォーマットは、
書式あるいはソフトウェアのフィールドの入力要件に合うよう、
区切り文字をカストマイズすることができます。

さらなる詳細は、www.defelsko.com/connect:

# WiFi

ローカルワイヤレスネットワークあるいはモバイルホットスポットへの接続を可能にします
。
保存された測定データとSoft.netとを同期させるためにネットワークのインターネットコネクションを使用す
ることは便利です。

www.defelsko.com/wifi　を参照

# 条件設定オプション
計器のWiFi構成オプションの設定

# AP チャネル
帯域関連のアクセスポイントチャネル（デフォルトチャネル：6）。

殆どのユーザに対して、デフォルトのチャネルの変更は必要はありません。
ネットワークのつながりが悪い､あるいは接続できない場合、
別のチャネルを試してみてください。

上ボタンを押下してチャネルをハイライトして下さい。(-) 又は (+)ボタンを使用して、
チャネルを変更してください。下ボタンを押下し、了承（OK）を選択します。

# 計器名
計器（１４文字まで）に対する名称を入力します。
ローカルネット上での計器識別に役立ちます。

# サーバ有効化
計器は、
接続されているネットワークデバイスによってアクセスできるウェブサーバを有しています
。このオプションは、ネットワークと計器間の接続を有効にします。
計器サーバにアクセスために、
インターネットブラウザを使用して計器IPアドレス:8080を閲覧します。

# IP 設定
手動にて、ネットワークIP情報を入力します。

IP 種別 (DHCP 又は Static), IP アドレス, ゲートウェイ,ネットマスク、DNS1、 DNS2

詳細は、ネットワーク管理者又はIT部門に問い合わせ下さい。

# AP パスフレーズ
WiFiネットワークのログオンに使用される一連の文字、数字あるいは記号。
デフォルトのパスフレーズ（パスワード）: password

中央のナビゲーションボタンを押下して、画面上にキーボードを表示します。
アクセスポイントのパスフレーズ（パスワード）を入力して下さい。
ポジテクタ・アクセス・ポイントに接続する全てのデバイスに対して、
パスフレーズ（パスワード）が必要です。

ポジテクタは全てのWiFi可能なデバイスを見ることができます。
単に新しいポジテクタアクセスポイントにデバイスをWiFi接続して下さい。
全てのポジテクタは、計器のシリアル番号あるいは計器名で識別されます。

# WiFi 初期化
全ての以前のネットワーク構成を消去し、デフォルトのWiFi設定に戻します。

# WiFi ストリーム
読取値をWiFi接続のデバイスあるいはPCへ無線にてストリーミングします。

有効の場合、計器は、指定のURLへ各読取値の取得要求（GET request）を送ります。
URLは読取値に関係した数値をポジテクタ（PosiTector）
によって置き換えられたタグを含んでおります。この方法は、ポジテクタ本体をIOT(

Internet of Things)デバイスとして認識します。
WiFiネットワークを使用しているユーザに対して便利であり、
アプリケーションあるいはデータベースに読取値をライブ配信するす
要望からのものです。

WiFiストリーミングの詳細情報についてはURL：www.defelsko.com/connect　参照して下さい。

# 自動同期

有効の場合､電源オンした際、保存測定データとPosiSoft.net
(インターネット接続が必要）とを自動同期させます。 あるいは、同期を選択し、
測定データを直接同期させます。

# アクセスポイント

ワイヤレスネットワークを作成して、スマートデバイスあるいはPCを直接、
ポジテクタ（PosiTector）に接続可能とします。
WiFiネットワークが利用できない時、便利です。

有効にするには、接続＞WiFiメニューからアクセスポイントを選択して下さい。
アクセスポイントアイコンは、ディスプレイの上部左側に表示されます。

## アクセスポイントの保護

ポジテクタ（PosiTector）が、許可されたデバイスのみにアクセスできるようにす
るためにアクセスポイントのパスフレーズ（パスワード）を入力することが重要です。
デフォルトのパスフレーズは、password です。

接続> WiFi　>　条件設定　メニューで、APパスフレーズ（を選択して、
デフォルトのパスフレーズ（パスワード）を変更できます。

# 有効化

ローカルWiFiネットワークとの接続を可能とするために選択します。
WiFiアイコンが表示され、計器が以前構成されたネットワークへの接続を試みます。
ネットワークメニューオプションから新しいネットワークに接続して下さい。

# ネットワーク

全ての利用可能なWiFiネットワークを検索し、表示します。ネットワークを選択し、
次に必要なら、パスワードを入力します。
ディスプレイ上にWiFiアイコンが表示されます。

注記:ネットワークが表示されない場合もあり、
追加ネットワークオプションを使用して、手動での構成が必要となる場合もあります。
サポートが必要な場合、ネットワーク管理者あるいはIT部門に相談して下さい。

# WiFi 情報
次に示すローカルWiFiネットワーク接続情報を表示します。

## SSID:
ネットワークの名称

## 状態:
ネットワーク接続のステータス

## IP アドレス:
ネットワーク上の計器に対するIPアドレス

# 同期
同期が選択されていると、保存測定データをPosiSoft.net
(インターネット接続が必要）と直接同期します。

# 更新
計器のソフトウェア更新が必要かどうかを判断します。

計器のソフトウェア更新を実施するために、計器は、
ポジソフト・デスクトップ（PosiSoft Desktop）
が動作しているインターネットあるいはWiFi接続されている必要があります。

www.defelsko.com/update 参照。

## 警告:
計器は更新後、ハードリセットされます。全ての測定データは、
メモリから消去されます。

# ヘルプ

メニューオプションがハイライトされている際、計器のヘルプを示す
(i)アイコンが使用できます。(+) ボタン押下あるいはヘルプアイコンをタッチして、
ヘルプを表示します。計器の更新を実行し、
計器のヘルプ情報が最新になっているか確認して下さい。

全てのヘルプ項目を含むPDFがwww.defelsko.com/helpで利用できます。

## メニュー操作

メニューを操作するために、計器の電源を入れ、
次に中央のナビゲーションボタンを押下します。メニュー操作をするために、
キーパッドあるいはタッチスクリーンを使用することができます。必要に応じて、
条件設定>タッチスクリーンメニューでタッチスクリーン機能を無効とす
ることができます。

該当項目をタッチあるいは上下ボタンを使用して希望のオプションをハイライトさせます
。次に中央のナビゲーションボタンを押下して決定してください。

1頁以上のメニューの場合、現在の頁番号がページメニュー名の下部に表示されます
。最初のメニュー項目の頁が表示されている際、
上ボタンを使用してページの移動あるいは最終の頁が表示されている際、
下ボタンを使用して移動します。タッチスクリーンを使用している際、
左あるいは右矢印を使用して、あるいは上下にスワイプして頁間を移動、して下さい。

(-) ボタン押下あるいは右側にスワイプして、前頁に戻ってください。終了を選択して、
メニューを閉じてください。

>付メニューオプションは、
メニューオプションに対してサブメニューがあることを示します
。オプションを選択して、サブメニューを表示します。

## スクリーンキャプチャ

(-) 及び (+)ボタンを同時に押下すると現在の表示画面を保存できます。
100件のスクリーンキャプチャがメモリに保存され、PCに接続された時、PosiSoft USB
ドライブ経由で、アクセスすることができます。

# 電源切断

電池寿命を保護するために、計器は5分間何も操作されない後、
自動的にスリープ状態となり、スリープモードに入ります。スリープモードでは、
計器はより速く、電源オンします。測定部材あるいは測定箇所を変更する際、便利です
。4時間、計器の操作が行われない時、完全に電源オフとなります。ます
。もう一つの方法として、メインメニューで、電源切を選択します
。全ての設定は保存されています。

DeFelsko®

The Measure of Quality

www.defelsko.com

© 2023 DeFelsko Corporation USA
All Rights Reserved

限定保証、唯一の救済措置、限定責任

DeFelsko の唯一の保証、救済、および責任は、同社のウェブサイト www.defelsko.com/termsに記載されている明示的な限定保証、救済、および限定責任となります。

本マニュアルの著作権はすべて保護されており、DeFelsko Corporation の書面による許可なく、その全部または一部をいかなる方法によっても複製または転送することを禁じます。

DeFelsko、PosiSoft、および PosiTector は、米国およびその他の国で登録された DeFelsko Corporation の商標です。その他のブランド名または製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

本マニュアルに記載された情報が正確であることを保証するために、あらゆる努力が払われています。DeFelskoは、印刷の誤りや誤字について責任を負うものではありません。